

文化力と創造性で 魅力アップを

建築家、株式会社ACT環境計画 代表取締役

小林洋子さん

Yoko Kobayashi



世界的音楽監督が絶賛

もともと建築に興味があったという小林さん。大学卒業当時、大手ゼネコンなど民間会社の多くは女性を採用せず、「建築家の道か、大学に残るか、公務員かの選択肢しかありませんでした」。

音楽や演劇などのホールの設計では、一置かれる存在だ。設計を任された川崎市の「ミューザ川崎シンフォニーホール」(2004年開館)は、演奏家と聴衆の一体感、

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

臨場感が出るよう、約2千席の客席がステージを取り囲み、さらに客席の配置をスパイラル状の非対称形にするなどさまざま

な独自のアイデアを取り入れた。公演したベルリンフィルの音楽監督、サイモン・ラトル氏は「世界一のホールだ」と絶賛した。「音楽を空間で感じる、今まで日本にないホールを造りたかった。使う人に喜んでもらえるのが一番嬉しい」。

10年くらい前から個人宅の音楽室やサロンホールなどの設計依頼が増えている。

経歴

静岡市葵区生まれ。横浜国立大学工学部卒業。国際的な建築家の事務所勤務後、1984年、ACT環境計画研究所設立、87年、株式会社ACT環境計画に名称変更、現在同社代表取締役。

文化学院建築科、横浜国立大学工学部各非常勤講師、横浜市区区民センター建設構想委員会委員、川崎市建築紛争調停委員、岐阜県文化センター建設構想委員会委員などを歴任。

2009年、東京・銀座でACT環境計画作品展を開催。

<http://www.actplanning.jp/>

内外から公募も

「たといえば、地元の管弦楽団も巻き込んで発信力のある世界的なオーケストラを市がつくり、団員を世界中から公募し、家族と一緒に静岡に住んで静岡の街を育てていく。そういう外からの刺激があると、街の魅力や地元文化力はもっとアップすると思いますね」。ホール設計の専門家らしいアイデアだ。

クリエイティブな料理が人気を呼び、市内にミシュランの星付き料理店が林立するスペインの小さな都市サン・セバスチャンを例に、「伝統も大切ですが、クリエイティブなものが求められる時代もあるんです」と語る。

街並みの魅力がアップして、「じゃ、週末は静岡へ行こうーそうになったら素晴らしいですね」。

(写真・文：長田義明)

手掛けた音楽ホールに内外の著名な演奏家を招いたり、百人以下の小規模ホールの運営、企画や、北軽井沢で音楽セミナーを開催するなど、幅広く活動している。

「東京で独立して仕事をしていくには、自分にしかない、これなら負けない、そういうものがあってもいいですね。売りになる独自性を打ち出し、『私はこれならできます』というものです」。

郷土が大好きな小林さん。街の魅力を高めるには、「建物やお店のデザインとか、街を歩く人のセンスが良くなっていかないとアップしないのでは」と指摘する。